

## 平成27年度 第3回小平市子ども・子育て審議会 会議要録

と き：平成28年1月13日（水）午後1時30分から2時25分まで

ところ：小平市役所2階 201会議室

### 1. 出席者等

子ども・子育て審議会委員・・・・・・11人

傍聴者・・・・・・・・・・0人

### 2. 配付資料

新設保育園の準備状況について

広報誌「ひらく」

### 3. 内容

議事

（1）新設保育園の準備状況について

（2）その他

### 4. 上記内容についての意見・質疑応答

#### （1）新設保育園の準備状況について

委 員 一時預かり事業について、数年前よりも実施園がだいぶ増えているが、利用したいと思い、予約開始日に電話をかけたところ50分程つながらず、ようやくつながった時には定員いっぱいだった。現状はどのようなのか。

事務局 「子育てガイド」31ページに記載があるように、現在は8園で行っている。毎年実施園を増やしてきたが、ニーズも高まってきている。予約は電話で受け付けており、受付初日の予約可能日数は5日とし、6日以上利用希望は2日目以降とするなど、予約方法は少しずつ工夫を加えてきたが、予約がとりづらい状況もあるようである。

委 員 保育園側として、一時預かりは直前のキャンセル、当日の無断キャンセルが多く、必ずしも定員いっぱい利用されているというわけではない。予約はした但实际上には必要とせず、当日等のキャンセルが非常に多い。本当に必要な人が利用できない場合があり、市民のモラルの問題である。公平に、必要な人が利用できるような予約方法を検討することが必要である。

- 委 員 キャンセル料はかかるのか。
- 委 員 キャンセル料はかからない。空きができてしまうと、保育園の運営面では苦しいところである。
- 事務局 一時預かり事業の利用状況について、数字的な点を補足したい。1園当たりの定員は5人で、平成26年度の1日の利用人数は1園あたり3.9人前後、約4人だった。7月に新たに実施園ができて以降緩和され、全体として約3.5～3.6人になってきた。今後、市の東部・西部によって利用状況の波があるため、各エリアのニーズ状況をとらえていきたいと思っている。
- 委 員 一時預かりを申し込む際に、利用者から事前に料金をとることはできないのか。
- 事務局 今のところは当日以降に現金払いという形である。私立保育園の場合は各園で行っている。
- 委 員 行政は性善説で対応しており、効率よく利用してもらうことだけを全面に出せるならよいが、そのような対応ができないのが現実で、利用者のマナーや常識が必要である。
- 委 員 近隣市と足並みを揃えて同じような動きをしていると思うが、近隣市における保育園の新設状況や待機児童数はどのようになっているのか。狭いエリアではなく広域的に考えていくことが重要であり、近隣市との広域連携は行っているのか。
- 事務局 市によって大きな違いがある。待機児童数としては、平成27年4月1日時点の小平市で178人、東村山市で32人、国分寺市で88人、東大和市で4人、東久留米市で87人、西東京市で143人、清瀬市で45人、小金井市で164人となっている。歩調を合わせて広域的な利用を促進していくという考え方は持っているが、今のところそれぞれの事情で動かざるをえない。ある程度施設整備が整えば、相互に広域連携を考えていきたいと思う。
- 委 員 保育園新設は他市でも進んでいるのか。
- 事務局 待機児童解消が前提にあるため、各市で整備していくのは同じである。ただし、私立保育園か、小規模保育事業か、あるいは家庭的保育事業なのか、何を整備していくのかは、各市の事情や考え方による。
- 会 長 各市とも子ども・子育て支援事業計画に沿って、施策を進めている。平成29年度に解消されていくということになっており、今年度はまだ待機児童解消にはつながっていないだろう。広域調整は都道府県が主導して行っていくため、

東京都からの支援も必要になる。居住地は小平市だが隣の市の方が利用しやすいという場合などには、市民の利用の幅を広げていくために東京都から指導を受け、担当課の方に考慮してもらいたい。

委員 前回の審議会でも話に出したが、事業計画策定時にはなかった事態として、平成29年4月に、500世帯以上の入居が見込まれる大型マンション群が2か所、花小金井地区にできる。今の178人を吸収するのにこの4園で足りるか分からないという状況でさらに1,000世帯以上が入ってくるため、どうするのだろうか心配している。園児募集が終わって待機児童が想定より多いとき、事業者を募集し新設するという今までの作り方では追いつかない。これからオリンピックが近くなり、建設事情が悪くなっていくだろう。また、保育士も6万人以上不足するとされており、足りなくなってもすぐには間に合わない。待機児童解消には4園の新設だけでは足りないと思うが、市としてどのような対策を考えているのか。

事務局 基本的には、今年から5年間の計画に沿って行う。地域的な問題に関しては、待機児童の分布を考慮した上で、今回の新設園を考えた。少子化といわれている世の中の動き、小平市内の地域の開発の動き、就学前人口が計画の見込みどおり平成30年をピークに減っていくのかどうか、などを見極め、次の計画策定時に考えていくこととする。

委員 その考えはよくわかるが、待機児童にとっては「今」しかない。3年後には子どもが小学生になり、保育園が必要なくなるため、スピーディーな対応が必要である。従来のように新しい建物を建てて事業者が運営していくという従来の手法に頼るのではなく、ウルトラC的な策を考えなければならない時代になっている。町田市が期間限定で保育園を誘致しているように、賃貸借物件を使って10年だけ保育所を誘致するなどの方法を考えていかなければ、働く母親の支援にはならない。計画の初年度ではあるが、策定時にはなかった事情が生じているのだからそのままではいけないだろうと、市民感覚では感じる。

事務局 1年間だけでたくさんの保育園を作っていくのは難しい。平成23年度から27年度にかけて、定員を900人以上増やしてきた。来年度も含めると1,170人あまり増えることになり、これは市として力を注いだ結果だと考えている。先を見越して多目に作るわけにはいかず、状況を見ながら作っていくことになる。また、実体として、マンションが建ってからすぐに子どもの数が増えるのではなく、1・2年経ってから増えていく傾向がある。平成29年度まで計画を進めながら、必要に応じて動いていくことにしたい。

- 会 長 状況を見ながら応じてくれることを期待している。
- 委 員 定員として、0歳児が10人前後、1歳児が4・5人くらいという場合が多い印象を持っている。新設保育園は4園とも0歳児定員が6人であるが、それはなぜか。
- 事務局 基本として3号認定の「0歳児」と「1・2歳児」に分けて市民ニーズをとらえ、それに基づいて計画を立てている。平成29年度の確保方策として0歳児ニーズを395人として考えているが、0歳児に関しては順調に整備が進んできている。0歳児には保育士の配置が他の年齢よりも多くなる点、必要な面積の点から、やみくもに定員を増やすのではなく、現実的で妥当な数字を考えて6人としている。1・2歳児に関しては、待機児童の大半を占めていることから、認可保育所に限らず、保育園を開設する事業者と、1・2歳児を中心とした面積や職員配置について慎重に考えている。
- 委 員 前回と今回の審議会で話題にあがっている、花小金井地区に500世帯以上のマンションが2か所建つことに関して、2年前にできた300戸のマンションに住んでいるが、入居が始まってすぐに子どもが増えるという感じはない。2年経った今は、親子用の自転車が増えてきているのが分かる。
- 事務局 保育園と高齢者施設が一体となった施設について、前回の8月の審議会で話に出たが、それに関して視察や勉強会に行く機会はあったか。
- 事務局 市議会の厚生委員会の視察で、町田市訪問に同行した。町田市では平成21年あたりから、20年の区切りを設けた補助を行って保育園を設置しているという事例の紹介を受けた。10年・20年で期限を区切った場合、事業者にとって期限が迫っていくにつれて、在園する園児0～5歳が完全に卒園するのに必要な移行期間が必要となる。期限後について完全には決まっておらず、事業者との協議が必要と聞いている。補助は期限で区切るが、そこで事業を停止してもらうのかには、検討の余地があるようだった。期限を区切ることよりも、全体の流れを見極めながら考えたいと思う。また、東村山市ではデイサービスを行う高齢者施設と一体の建物で保育を行っている例があった。魅力的な面はあるが、事業者が両施設を運営しなければならず、事業者から提案を受けたとき、今後の可能性の一つとして考えたいと思う。待機児童解消のために動いているという状況なので、現在は計画としては考えていない。
- 委 員 両方の施設が一体になっているのはよいと思う。しかし、平成42年くらいから待機児童が少なくなるという中、高齢者施設が足りなくなった場合に、施設の転用は費用がかかるが、収益をあげるためには必要だと思う。公共の施設を

いかに有効に利用していくかは、保育課だけでなく、総合的に考えていくのがよいだろう。どのようなハードなら可能になるかなど、事業者への提案や情報収集はしているのか。

委員 話題にあがった花小金井地区に、今年の４月、魅力的な土地ができる。広大な２，０００㎡の敷地をもつ鈴木保育園が３月で閉園になり、跡地が使えることになる。その土地を一時的に保育事業者に貸して乳児に特化した保育園を作することを提案したが、災害のための施設になると聞く。いつ起こるか分からない災害のために利用するよりも、目の前にいる待機児童解消のために利用した方がよいのではないか。今ある保育園の建物を改築して数年間だけでも保育園として利用するなど、市民が簡単に思いつくようなことをしていないと思う。

委員 すずのき台保育園は将来的に高齢者施設として使うことを見越して作られていると聞いた。廊下が広く確保されており、近代的でおしゃれでもあったが、これは園が独自にしているのか、市が行っているのか。

事務局 それがどちらなのかは分からない。平成２５年度、待機児童解消加速化プランにおける厚生労働省からの説明によると、保育園が空いたら高齢者や障がい者の施設に転用することも考えられるという話もあった。しかし、保育のためとして国から補助金をもらっており、目的外の使用になると、補助金返還を求められるかもしれない。将来的に転用が可能になれば、考えていきたいと思う。

委員 小平市は若い人たちの人口が増え、若い人にとって新たに住みやすいのだろうと、高齢者としては嬉しく感じる。去年は１８０名の待機児童数で保育園を４園作り、今年も４園作っているが、待機児童数が減らないのはなぜだろうか。近隣市から小平市の保育園に通っていることも多いのだろうか。

事務局 これまでの例としては、小平市の子どもが近隣市保育園に行く率の方が高い。今後、子どもが増えなくても共働き世帯が増えていくことが予想され、生産労働人口が減っていく中で、国は女性に社会での活躍を推進しているところで、保育園に簡単に空きができる状況となることは考えにくい。事業計画に沿って定員確保を考えているが、待機児童が減っていくのは、保育定員が就学前人口の４５％を超える程度の数確保できた状態であろうと思われる。小平市はまだ３０％台であるため、潜在需要が出切れておらず、保育園を増やす程、申込みも増えていくと考えられる。今後、どこかの時点で待機児童が減っていくものとして、計画を進めていく。

委員 平成２９年度の保育園１園の新設が進んでいると思うが、今回の審議会では報

告しないのか。

事務局 内容的にまだ報告できる段階ではない。

委 員 全国の3・4・5歳の95%以上はどこかの園に入っているという現状である。自分も新設園を作ったが、3・4・5歳クラスは空きが出ている。4園でき、新たに280人の定員が増えても、0～2歳児定員は50人増えるだけであり、乳児保育園の整備をすべきである。当時の支援計画の中で、幼稚園の連携施設として、認証保育所としての乳児保育園をいくつか作るとされていたが、それがうまくいっていないのは承知している。しかし、年齢ごとの定員数の差がないまま何園作っても、何年かしたら3・4・5歳の部分に空きができて子どもの奪い合いが生じ、乳児定員はまだ足りていないという状況にしかならないだろう。乳児定員を増やしていかなければいつまでも解決しない。

事務局 0～5歳は280人の定員増であり、そのうち0～2歳は124人となっている。

委 員 それは数字のマジックである。0～2歳児定員を全部足すとそのようになるが、0歳が24名入ると、次の年は1歳児が22名しか入れない。1歳から2歳になったときに入れる子は4名しかいない。つまり1年目に0歳で埋まってしまうため、実質50人しか増えない。0・1・2歳児定員を単純に足していくのが、待機児童数の考え方なのだろうか。

事務局 定員数の数え方については、持ち上がりはあるが、各年齢層の年度毎の定員で合計数を出しているため、124人の定員増としている。178人の待機児童のうち0～2歳児が175人を占めており、ここを増やしたいと努力している。事業者は0～2歳児までの年齢構成の園を提案してもらったとき、保護者が「3歳にあがるときにまた待機になるのではないか」という不安からその園を選んでくれないという状況が懸念され、0～5歳までの園を作りたいという事業者が多い。また、3～5歳は幼稚園につなげたいと考えているため、その働きかけをしている。現実的には0～2歳児は、認証保育所、認定家庭福祉員などから幼稚園につながっていくケースはあるので、さらに形にしていきたいと思っている。

委 員 自分の子どもが0～2歳児のいわゆる乳児園にお世話になっている。3歳の時点で転園の不安もあるが、3歳児の約95%が受け入れられているということから、それほど不安は大きくない。今の園は運動会や遠足などのイベントはないけれど、0～2歳児に特化した日常を大切にする保育をしてくれるため、ありがたい。転園の不安から応募が少なくなることを不安に感じる事業者さんの

ことも分かるし、転園の際に子どもが感じるストレスもあるだろうと思うため、本当は0～5歳までずっと在園できる保育園が第一志望だった。しかし、今の小規模な乳児園は小さい子だけで育つ、よい環境であるとは思うため、働くお母さんにそこを理解してもらいたい。理解が深まれば、敷地が広く必要ないことから、事業者さんが乳児園新設への不安を解消し、積極的になってほしい。

会 長     乳児に特化した園を作っていくこと、現在・将来的に老人施設との併用を視野に入れた保育施設を作っていくことなど、いただいた意見を参考にして色々な可能性を探り、柔軟かつ迅速に対応してもらいたい。ここで、「新設保育園の準備状況」についてはご了解いただけたものとする。

#### **(5) その他**

特になし